

大阪医科大学 2015年度(後期)入学試験 解答速報 英語

2015年3月10日 実施

問題 I

(1) しかしながら、その司会者が最も驚くことになったのは番組も大詰めにさしかかった時だった。その原住民の言語は、広く知られた言語のうちどれが一番近いのかと彼は質問したのだ。

[別解]しかし、その司会者にとっての最大の驚きが番組の最後に待ち受けていた。「その原住民の言語はよく知られた言語のどれが一番近いのか」と彼は質問したのだ。

(2) 確かにアボリジニが英語を話す時、片言の、文法的におかしい、不明瞭な、すなわち「原始的な」英語を使うが、これは単に英語が彼らの言語ではないからである。

(3) 英語を話そうとする「原住民」はまさしくこの無駄の削ぎ落としを行うが、それは彼らの言語に文法が存在しないからではなく、彼らがきちんと学んだことのない外国語を苦労して用いる場合には、彼ら自身の母語がいくら高度に発達していてもそのことがほとんど役に立たないからである。

(4) 現在、未開の部族が用いる何百もの言語が詳細にわたって研究されているが、たとえ最も「原始的な」種族によって話されていても、それらのうちで「わたし、寝る、ここ」という水準にある言語など一つとして存在しないのである。

問題 II

(1) 世間一般の通念によると、不利な状況とは避けるべきこと、すなわち、それが無い場合よりもその人を困らせる状況であるとされている。

(2) そのテストはある事柄が見かけよりも複雑である時の理解能力、つまり、すぐに思いつく答えから一歩進んで、より深く分析的に判断をする能力を測定するものである。

(3) 問題を「読み取りにくい」ものにすることによって、人はどんな問題に出くわしても、それについてより深く考えるようになる。

問題 III

- (1) Global warming is one of the few problems that make us examine the whole basis of modern society.
- (2) Our estimates suggest an average temperature increase of 4 degrees centigrade, a sea-level rise of at least fifty centimeters, and significant changes in climate patterns.
- (3) To answer the question of what we can do against this crisis, we must change some of the basic rules of our society, and adopt a much more global and long-term approach than today.

講評

形式・内容は例年通り。大問1が言語に関するやや抽象的な問題であり、全体の文脈をふまえないと訳出の難しい箇所もあった。大問2は認知に関する具体的な話題であるが、内容を理解していないと訳語の選択に苦勞する。大問3の英作文は、地球温暖化に関する問題で、近年の大医の傾向を研究していればしっかり対応できたであろう。取り組みやすい大問2、3で、どれだけ時間をかけられたかが勝負を分けるだろう。目標は6割5分。

医歯学部進学予備校 **メビオ**

〒540-0033 大阪市中央区石町2-3-12 ベルヴォア天満橋

TEL 06-6946-0109 FAX 06-6941-9416

<http://www.mebio.co.jp/>

